

こんなにあった日本の薬害

1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レント博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンブル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。

1989 MMR ワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。日本での使用禁止はアメリカから10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C型肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、1万人以上が感染。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後に副作用死多発。抗がん剤の承認・安全性情報伝達に改善課題を残した。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。10代には使用禁止に。

2013 子宮頸がんワクチン

ワクチン接種を受けた少女に手足のけいれんなど後遺症が残る副反応。接種推奨を控える勧告。

2015/7

